

認知症の人にやさしいまちづくりのために ～今ある地域資源を活かして～

ええ和ごぼう

ええ人 ええとこ わがらのまち
(自分たち)

和歌山県 御坊市市民福祉部

介護福祉課地域支援係(御坊市地域包括支援センター)

副主任 谷口泰之



御坊市について

3

紀伊半島海岸部のほぼ中央部で、温暖な気候。総面積は43.91km²と狭い。市民の主な移動手段は自家用車。

日高川を境に河北、中央、河南エリアに生活圏域があり、河北は地元の方と移住の方が混在。中央は官公庁や商業施設が集中し、独居や夫婦世帯多い。河南エリアは農業や漁業が中心で2～3世帯同居がまだ多く残る。

★御坊市の自慢

花の生産が盛ん **スターチス**出荷量 日本一

サイコロ・麻雀牌の生産量日本一 全自動卓はほぼ100%

日本一営業区間が短い単線私鉄「**紀州鉄道**」全長2.7km

歴史ロマン溢れるまち **日本最古の青銅器溶炉遺構**発見

御坊市について

4

出荷量日本一のスターチス



「御坊市」の名前の由来となった、日高別院



日高別院を中心に栄えた寺内町



温暖な気候で果物生産が盛ん



御坊市の海に住む魚たち



民家の間を縫うように走る紀州鉄道



御坊市のこれまでの認知症関連事業

5

認知症地域支援体制構築等 推進事業(H21～22)

- ・「認知症コーディネーター会議」発足
- ・認知症地域資源マップ整備(ウェブ)
- ・高齢者安心サポート事業開始
- ・高齢者安心声かけ訓練実施
- ・多職種協働認知症スキルアップ研修
- ・市主催認知症サポーターキャラバン・メイト養成研修
- ・住民向けシンポジウム開催
- ・認知症連携担当者配置

(認知症対策連携強化事業)

市町村認知症施策総合 推進事業(H23～25)

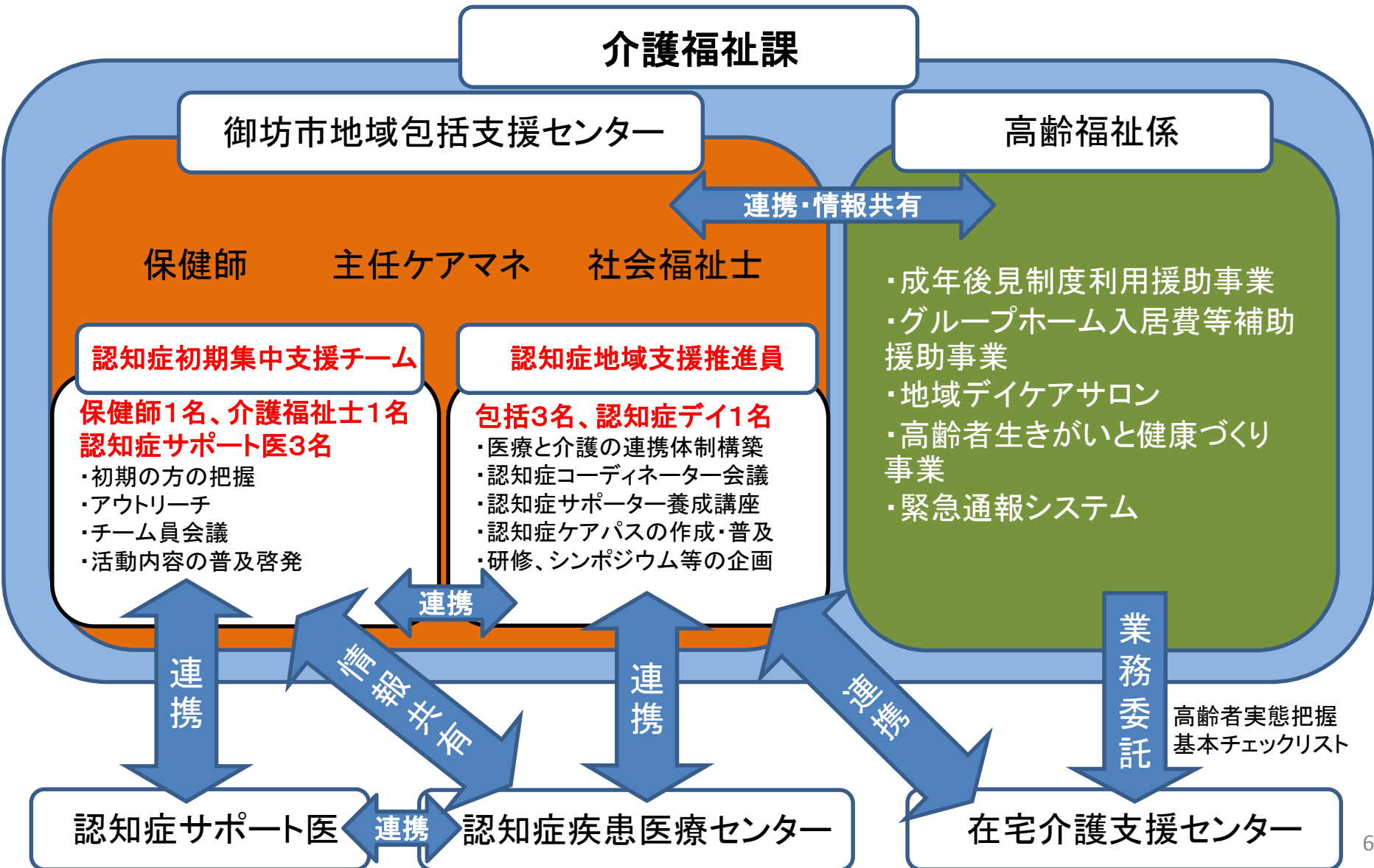
- ・認知症地域支援推進員配置
- ・認知症疾患医療センターとの連携体制づくり
⇒先進地視察(堺市等)
- ・キャラバン・メイト中心のまちづくり組織結成
- ・若年性認知症の方の支援体制づくり(1人の関わりから)

認知症総合推進事業

H26～

- ・御坊市認知症ケアパス作成
⇒第6期介護保険事業計画に反映させる
- ・認知症初期集中支援チームを設置(H27. 10月～)
- ・介護家族のつどい「ごぼうホッとサロン」開設
- ・キャラバン・メイト連絡会設立(予定)
- ・若年性認知症支援体制構築(予定)

御坊市の現在の組織体制図



市から求められている推進員の役割

7

□ 認知症の正しい理解の普及・啓発

認知症サポーター養成講座、講演会、シンポジウム等の開催

□ 認知症ケアパスの作成・普及

□ 介護と医療の連携体制構築

かかりつけ医、認知症疾患医療センターとの連携、多職種協働研修等

□ 若年性認知症の方や家族への支援

□ 介護家族支援(介護家族の集い:ごぼうホッとサロン)

□ 高齢者安心サポート事業(行方不明捜索ネットワーク)

□ 個別相談支援

私個人的には**新オレンジプラン**遂行のための、地域の「**コーディネーター役**」だと思っています。

本日のお伝えしたいポイント

8

- 「認知症ケアパス」を作成する上で求められる、認知症地域支援推進員の役割。
- 認知症地域支援推進員が中心となって取り組んできた地域づくりはさまざまな「出会い」がきっかけ。
- 地域の資源は「作る」のではなく、「今あるもの」を活かす。

ということも含めて、「**元気になれるお話**」を・・・

認知症地域支援推進員のイメージって？

9

認知症地域支援推進員になったら、大変そう？

先進地事例を聞くと「うちの地域は難しいかも・・・？」

事業と言われても、お金もマンパワーもないし・・・

本日、私がお伝えする事例は、難しい事例ではありません。まちづくりは推進員1人では無理です。頼れるところは頼りましょう！

認知症施策を進めるために

10

- ・「認知症コーディネーター会議」を設置(H21～)

最初は包括と地域密着型事業所の3人からスタート…

現メンバーは、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、保健所、地域密着型サービス事業所、施設サービス事業所、介護支援専門員協会、社会福祉協議会、認知症疾患医療センター(PSW)、市高齢福祉係、健康増進係(保健師)担当で組織。(現在14名)

会議の目的は、認知症施策の提言、まちづくり、研修の企画等…1～2カ月に1回程度で会議。

また、認知症初期集中支援チーム検討委員会の委員を兼務。

人数は、多すぎず・少なすぎず、が動きやすい

認知症ケアパスの作成

11

- 平成26年度、第6期介護保険事業計画策定にあわせて着手。
- 行政や地域包括支援センターだけで作成することは無理。認知症コーディネーター会議に投げかけ、「御坊市認知症ケアパス策定検討委員会」を立ち上げることになる。
- 策定委員会のメンバーは、認知症コーディネーター会議のメンバーに加え、医師会より認知症サポート医を迎える。
- 認知症ケアパスを作る過程で、**認知症施策の理念と基本指針**を掲げる。

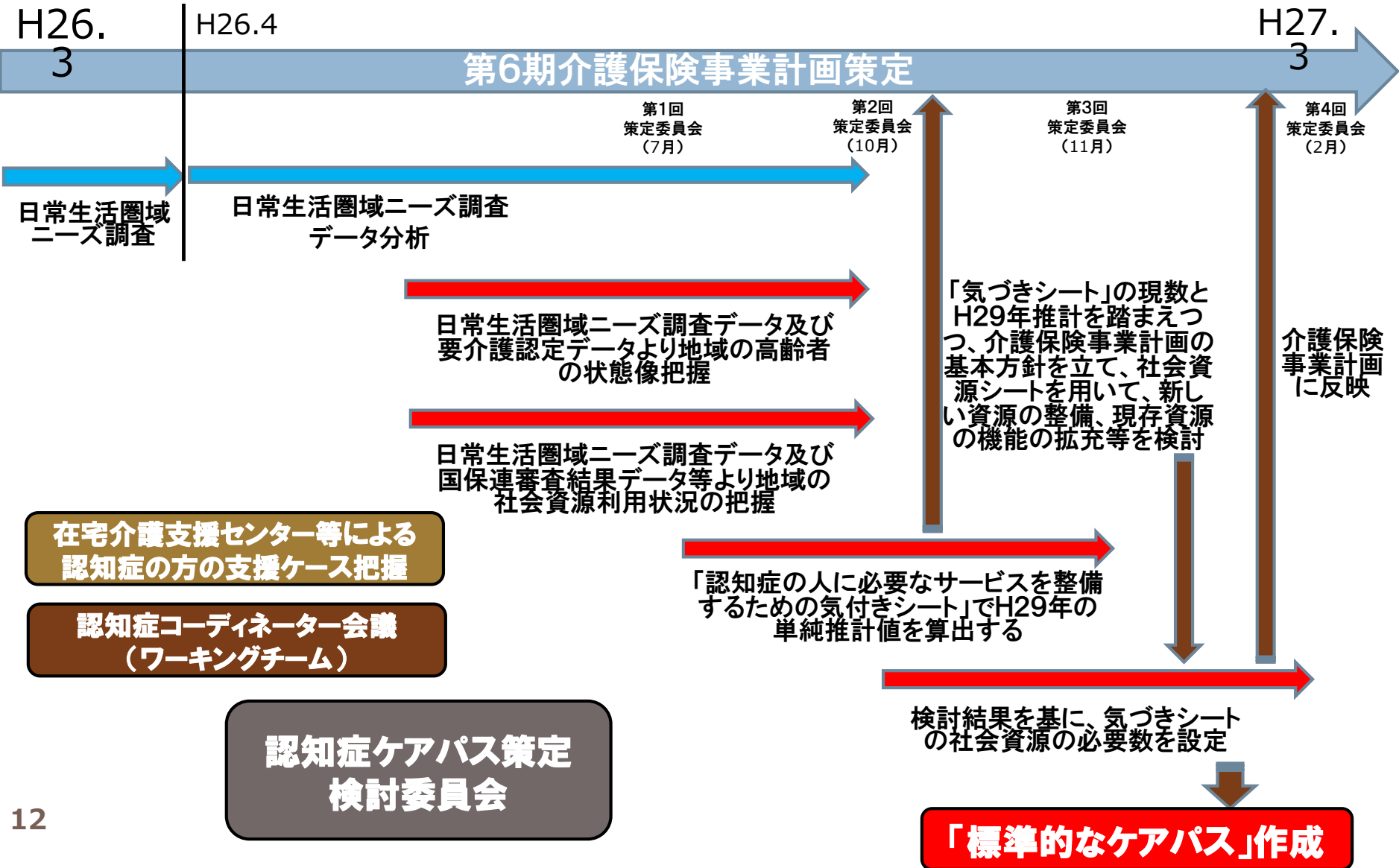
「理念」

～認知症になっても、希望と尊厳をもって暮らせるまち「ごぼう」～

「基本指針」

1. 地域住民が認知症を理解し、**安心して出かけられるまち**を目指す
2. 認知症の方本人の声に耳を傾け、認知症の方にとって**住みよいまちづくり**を目指す
3. 認知症の方の**家族が介護を抱え込まず**、支援できる体制を作る

御坊市認知症ケアパス 作成予定表



認知症ケアパスと介護保険事業計画の関係

13

- 介護保険事業計画の委員会(計4回)において、認知症ケアパス策定委員会の意見を反映。
⇒結果、認知症施策のボリュームが大幅にアップ。
- 成果として、グループホーム入居費等補助事業、地域密着型サービスの整備、認知症サポーターの養成人数の目標設定、認知症地域支援推進員の配置増等。


認知症ケアパス報告書の作成

14

- 「認知症ケアパス」を1年間かけて作成したプロセスを「認知症ケアパス報告書」にまとめる。
- 単なる「作成しました」という報告書という内容ではなく、広く市民の方に見ていただける内容に。
- 事業所に対するアンケートを行い「認知症ケアの売り」と専門資格者やキャラバン・メイト、サポーターの人数等の記載を依頼。

⇒「うちってサポーターが居ないね・・・」事業所の意識に変化 → 講座開催や、メイト資格取得等

御坊市 認知症ケアパス

検索 

地域づくりの一例

～1人の男性との出会いから～

15

- 平成23年冬、男性Aさんが地域包括支援センター窓口へ奥様と一緒に来所。当時64歳。
- 60歳で定年退職後も、職場からの依頼もあり仕事を続けていたが、様子の変化に気づいた同僚に受診を勧められ、若年性アルツハイマー型認知症と診断を受ける(当時62歳)
- 職場の理解もあり、そのまま仕事を続けていたが、通勤電車の乗り換えができなくなり、退職を決意。
- 退職後、妻と外出中、いつの間にか行方不明に。また、見守りがないと夜間に外出したりすることが多くなる。
- 今後のことを考え、介護認定の申請。結果、要介護3の認定

Aさん本人の言葉

16

- オレ、これからどうしたらええんやろ？
- (ご先祖様の墓前で)あんな、オレ変な病気にかかってしまったん。
- まだまだやれる！働きたい。
- 人の役に立ちたい。

自分が変化していく戸惑いを感じながらも、まだできることをやりたいという気持ちを伝えてくれた。

当時の認知症地域推進員が奔走

17

本人が

□ 働きたい ⇒ **ボランティアをやりよう！**

ボランティア内容について行政に相談

□ 体を動かしたい ⇒ **ソフトボールをやりよう！**

キャッチボールから始める

本人の声をもとに、できそうなことを推進員が考え
本人に返す。

「オレ、楽しんだらええんやな！」

ちょっとしたボランティア活動 ～認知症対応型デイサービスで～



得意の料理でデイサービス利用者にご飯を振舞う



デイサービス送迎車をきれいに洗車

一緒に作業をしていると、自然と会話が弾み、ご本人の思っていることが聞き取れることが多いです。

ちょっとしたボランティア活動

～活動範囲を広げて～

みんなに楽しんでもらえるように

仕事は林業
やったのさ



事業所の垣根を越えて利用外の
デイサービスでボランティア活動



小学校の校庭を掃除。
校長先生も感謝！



市役所の
お役に立て
るのなら。

市の啓発ティッシュを作成
作ったティッシュが市民の手に！



地域の竹林間伐のお手伝い。
竹は「流しそうめん」や「門松」に
利用し、地域住民と交流

つなぐ → 活躍 ⇒ 「役立っている」と実感！

Aさん以外の方への波及効果も！

仲間を募ってソフトボール



Aさんの「俺ソフトボールしたいよ」という思いに応えようと、推進員の呼びかけでケアマネジャー、サービス事業所等の方々が集結しました。

仲間たちとDシリーズへの参加



Dシリーズ：認知症の人のための全国ソフトボール大会（開催地：静岡県富士宮市）
平成25年度から年1回開催されている。

仲間たちとの再会：ミニDシリーズ

22

今年のDシリーズに参加できなかったAさんのために、岸和田市の仲間たちが来てくれて「ソフトボール大会in GOBO」を開催！推進員が実行委員に。

認知症の方や家族、支援者、地域住民が参加し、みんな楽しくソフトボールで交流！地元の元プロ野球選手も参加し、大盛況でした。



ソフトボールで楽しく交流

23



元プロ野球選手のノックを受け、皆さん感激！



試合前に歌で盛り上げ、参加者を歓迎



手作りの「優勝カップ」ですが、授与式でハプニング！？



最後に、全員集合で記念撮影

RUN伴への参加

24

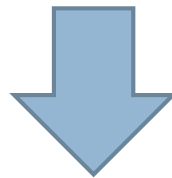


当事者さん、家族、家族の友人、専門職、他の職域の方々がひとつになって思いの詰まった襷を繋げました。

Run伴を地元で走りたい！

25

- Run伴2013で大阪を走ったAさん。「やっぱり、地元を走りたい！」という思いが強くなる。
- 本人の願いをかなえるため、支援者が奔走し、御坊市出発の「和歌山～大阪」副線ルートを設定。
- 関係者だけで走るのはもったいない。また、これに合わせて、認知症の理解を啓発したい。



啓発イベント「**オレンジマーケット**」開催！

ラン伴当日：多様な立場の人たち

26



「オレンジマーケット」の開催 ⇒「脱領域」資源を活用して

27

- ラン伴開催に合わせて、認知症の啓発したいと提案。
- しかし、当日は朝7時にスタートして30分ほどで御坊市内を駆け抜けてしまう・・・当日は啓発できない・・・？
- ランナー登録した人は、本人・家族と支援者以外に、読み聞かせオヤジの会、商工会議所、市議会議員等々。
⇒この人達と協力すれば面白いことができそう！？
- コースになっている商店街を巻き込んで何かできないか？認知症地域支援推進員の個人的なつながりで依頼。
⇒「脱領域」のコラボ

オレンジマーケット2014の様子 ⇒「脱領域」メンバーの活躍

28



読み聞かせオヤジの会が紙芝居を披露



様々な立ち場の方が協力してくれました



商店街をオレンジ色に染める



メイン会場で、無料カフェと作品展示等
(空き店舗を利用)



市の課長が熱唱！



「オレンジマーケット」がもたらした効果

29

- 「RUN伴2015」に向けて、商店街から「今年もオレンジマーケットやろうよ」と言ってくれ、2015年は、**商店街の納涼祭とコラボレーション!**



商店街全体がイベントに協力してくださり、
「自分たちは認知症のことは詳しくわからんけど、
誰でも安心して買い物できる商店街にしたい!
と言ってくれた。

振り返りと今後の課題

30

1人の支援から広がった地域づくりではあるが、あくまですべての方が求めているニーズとは限らない。

様々な方の声を拾い上げていく必要がある。⇒認知症ケアパスへ反映。

認知症ケアパスは、“**もの**”を作成する“**プロセス**”とその後の“**アクション**”が重要！

⇒本人と関係者と「一緒に体験する」機会を作りながら推進員が「すべきこと」「できること」を見つけ、動いていく

「認知症の人 と 何ができるか」

～認知症になっても、希望と尊厳をもってらせるまち「ごぼう」へ～

推進員の仲間と情報共有

31

- 和歌山県内の認知症地域支援推進員が情報交換できる場を作ろう！と呼びかけ、有志のメンバーで集まりました。近くにいながら、意外とお互いの活動状況等を知らなかったもので、いい機会となりました。



認知症カフェならぬ、“認知症酒場”？



大阪府堺市の家族会が主催で、小さな立ち飲み屋に全国各地から認知症の方や支援者が集まり、また店の常連さんも入り乱れ、大宴会。楽しくお酒が飲めれば、認知症とか障害者とか、そんなことは関係なく、お互いが「パートナー」であることを認識できる場になりました。



認知症地域支援推進員の皆さまへ

33

「認知症になっても安心して暮らせるまち」ってどんな街だろう？っと考えても・・・具体的にどうすれば安心できる街になるのか・・・

私の経験上、それは、本人や家族に実際会って、声を聴いてみないと、わかりません。

全国には、**たくさんの仲間や先輩たち**（認知症の方本人含め）がいます。行き詰ったときは先輩たちの力を借りましょう！私も先輩たちに悩みを相談し、先進地視察に行ったり、また研修会等にお呼びして、色々教わりました。

今日もたくさんの仲間と出会っていると思います。今後のお付き合いを大切に、一緒に楽しく頑張りましょう！